

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・高速道路料金引下げ効果で、土日に観光客の来街者が多くなっている。定額給付金の給付によって消費者の財布のひもも緩みがちになっている。景気も底を打って、しばらくは上昇していく。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・夏のイベントやお中元、お盆などがあって、景気は悪くてもそれなりに需要はある。
		家電量販店（営業担当）	・エアコンの動きが早く、多少期待が持てる気配がある。しかし、テレビ、冷蔵庫がもっと良くならないと全体的に上昇してこない。
		乗用車販売店（営業担当）	・環境対応車への買い換え・購入に対する補助制度の実施により、新車への購買意欲は増すと期待する。しかし、新車・中古車を併売する当社は、中古車の落ち込みが懸念される。
		乗用車販売店（役員）	・自動車業界では、ハイブリッド車の受注が非常に良い状況であるので、6月以降、登録台数が増えてくる。売上も半年ぐらいいい状況が続く。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・2～3か月先は、お中元ギフトがプラスとなり、やや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザも収まってくると思われる。個人向け海外旅行の環境は比較的良好なので、個人旅行は回復してくると予想している。景気も多少回復基調であり、企業の団体旅行も少しは回復する。
		通信会社（管理担当）	・新端末の販売開始及び、新サービス導入予定などによる市場のにぎわい感の創出で回復も想定される。
		観光名所（職員）	・国の経済対策は少しずつ効果が出てきていると思われる。しかし、ボーナスが減っているなど、まだまだ気がぬけない。
		競艇場（職員）	・「ナイター営業」効果により、しばらくは売上微増が期待できる。
変わらない		商店街（代表者）	・政局の混乱、消費税引上げ問題、新型インフルエンザ、人口の減少、個人資産の目減り等、悪材料を数え上げればきりがなく、将来の予測が立たない。
		商店街（代表者）	・景気対策のため定額給付金の給付などを行っているが、その効果がみられない。今後も明るい兆しは一つもない。
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・新型インフルエンザが落ち着けば回復してくると思うが、この先どうなるかわからない。
		百貨店（営業担当）	・夏のボーナスに不安はあるが、必要な物は買おうという動きが徐々にみえてきている。景気が回復するのは先になるが、良い傾向にはある。
		百貨店（売場担当）	・政府の景気対策などで商品群によっては活性化するであろうが、所得が増加するのではなく賞与水準も低いので、全体では前年売上実績確保は厳しい。
		スーパー（店長）	・衣料品売上の前年割れ状況は変わっていない。食品も他社との価格比較をする客の声をよく聞く。特売品の売上が増えている。
		スーパー（店長）	・今年は昨年よりも夏が早いので、季節商品の売上に期待できる。しかし、値下げが続き、夏物の効果も相殺されそうである。定額給付金の給付を見込んだ自治体のプレミアム付き商品券の効果も限定的なものになりそうである。
		スーパー（店長）	・5月後半は、定額給付金の給付や新型インフルエンザによるマスク需要で、売上が多少上向きになった。しかし、夏のボーナス時期はどうなるか不明で、景気が回復するとは思わない。
		スーパー（企画担当）	・新型インフルエンザの影響で、多少備蓄用商材が動いているが大したことはない。逆に行動範囲が狭まったことによる旅行業界などへの影響は計り知れない。
		スーパー（財務担当）	・財政出動による景気浮揚効果が出てくるのは、9月以降になる。
		コンビニ（総務）	・景気の先行きが不透明であり、消費刺激策を受けた動きが見えてこない。
		衣料品専門店（経営者）	・予算どおり売上があっても、以前からの負債が多いため変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・低価格商品しか動かず、消費者の買い控えの姿勢は当分続く。

	家電量販店（店長）	・政府の省エネ家電エコポイント制度により、テレビ、エアコン、冷蔵庫が好調に推移している。この状況は当分続くと予想している。しかし、エコポイント対象外の商品が非常に厳しい状況なので、全体としては3か月先も変わらない。
	乗用車販売店（従業員）	・エコカーへの減税措置は、自動車販売の下支えになっているのは事実だが、減税措置終了後の販売には不安が残る。政策頼みの販売では、先行き不安は払しょくできない。
	乗用車販売店（従業員）	・自動車関連の法案がいろいろ通っているが、それに対応する客の動きが今の状況では見えない。
	一般レストラン（経営者）	・このたびの新型インフルエンザと同様にテレビやラジオから流れる情報で、冷え込んでいた消費マインドがゆるみ、警戒しながらもぼつぼつと客が見え出した気がする。
	一般レストラン（経営者）	・かなりの数の競合店が開店して1年が過ぎるが、そうした店の状況はよくないと推定されるため、更に販売強化してくると予想している。その対応に追われ、来客数の回復はない。
	観光型旅館（経営者）	・新型インフルエンザ問題は徐々に薄れているので、その点では良くなっていく。当地は本四連絡橋関連のイベントも行っているが、それほどの集客状況になっていない。今の状態が秋まで続く。
	タクシー運転手	・景気対策の効果は見えない。
	タクシー運転手	・例年5～6月は、株主総会、その後3次会、4次会という客があった。しかし、今年は5月中旬～後半に全然それがなく、この状況がしばらく続く。
	通信会社（企画）	・やや上向きの気配はあるものの、ボーナス減額などの影響があり、あまり良くはならない。
	通信会社（支店長）	・景気については、極めて厳しい状況にあるが、各企業等の自助努力もあって、横ばいで推移する。
	美容室（経営者）	・業務に変化がないので、良くも悪くもならない。
	設計事務所（職員）	・今後の公共事業量次第である。不透明であり、現時点で何とも言えない。
やや悪くなる	百貨店（営業担当）	・前月に比べて前年売上を確保できた商品群が増加したが、エクセレンス（高級婦人服）、宝飾、美術、呉服等の高額商品及び高感度のファッション商品の動きが鈍い。購入単価の低下傾向も継続している。
	百貨店（販売促進担当）	・新型インフルエンザの流行が治まるにつれて、夏休みごろには旅行などの動きが活発化する。
	衣料品専門店（経営者）	・来月は梅雨入りするだろうが、今の土日の動きからすれば厳しい。特に、公務員のボーナスのカットが新聞やテレビで放映され、だんだん消費マインドが冷えて厳しくなるのではないかと懸念している。
	都市型ホテル（経営者）	・予約状況が芳しくない。それに加えて新型インフルエンザの影響がある。
	タクシー運転手	・夏になれば、四国八十八か所参りの仕事なくなるため暇になり、街のタクシー台数が増えるので良くなることはない。また、土日、祝祭日の高速道路料金引下げが、我々にはマイナスになっている。
	ゴルフ場（従業員）	・予約は、だんだん少なくなっている。全体的な来客数も減っている。
悪くなる	商店街（代表者）	・5月中旬まで一時的に盛り返している感があったが、長続きせず、5月後半には元どおりになってしまった。消費者は将来への不安を抱えたままで、生活防衛意識が強い。
	一般小売店〔酒〕（販売担当）	・ゴールデンウィークには、高速道路料金引下げにより、神戸、大阪、高松の都市圏での購買が一層盛んになり、地元での店頭購買や料飲店への支出が極端に減少した。この傾向は更に拍車がかかる。
	スーパー（店長）	・本県の経済状況、雇用状況を見ると、全国的な流れと同じくデフレ傾向になっている。スーパーマーケットは、その影響を受けており、今後、更に悪化していくことが懸念される。
	衣料品専門店（経営者）	・会社の業績が悪いだけでなく、それに伴って個人所得が下がってきている。
	住関連専門店（経営者）	・毎月、販売量が対前年比で落ちている。今後も、この状況はしばらく続く。
	美容室（経営者）	・先行き明るい兆しが見られない。
	設計事務所（所長）	・公共、民間共に新築の建物が本当に少ない。
企業	良くなる	-

動向 関連	やや良くなる	輸送業（社員）	・製紙業及び製造業各社からの受注量が、昨下期の末期的な状況から抜け出て増加傾向がみられる。下期からの出荷数量は、10～20%の増加で推移する見込みである。
		通信業（部長）	・景況に底打ち感が生まれており、先行きへの安心感が今後の販売数量の伸びにつながってくる可能性が高い。現在よりも消費活動が活発化すると考えられる。
		不動産業（経営者）	・以前に比べると、問い合わせや客からのコンタクトが多くなっている。しかし、客や企業からの要望（価格、条件など）と、実際の売・賃物件との条件には大きな乖離がある。また、客が法人、飲食店の場合、比較的安い物件が中心となり、個人であれば比較的堅い職業の人が多い。それ以外の人の状況はまだまだ冷え込んでいる。
		公認会計士	・関与先の社長との話で、特に観光業に関連している業種（ホテル、土産店など）は、かなり収益が改善しており、設備投資にも積極的に取り組みたいということであった。そういうことから今後、若干改善されてくる。
変わらない		食料品製造業（従業員）	・夏場になってくると、商品の回転が悪くなるということもあり、今後もあまり変わらない。
		木材木製品製造業（経営者）	・景況が底を打った状態ではなく、底でずっと平行に動いている状態である。上期はたぶん最悪である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現在の状況はあまり変わらず続いていくものと思われる。油やパルプ、古紙等の仕入価格が下げ止まったので、販売価格を維持するのが大変である。
		鉄鋼業（総務・人事統括）	・取引先では、自動車業界など一部の業種で改善の気配が感じられるものの、周囲を見わたすと雇用面のマインドは良くなく、新型インフルエンザの影響もあり、個人の消費活動は低調である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・依然として円高状況であり、特に海外の状況に回復の兆しがみられない。
		建設業（経営者）	・すべての面で好転する気配が見当たらない。
		通信業（営業担当）	・家電量販店、大型スーパーのマネージャーから、これから数か月先に向けた個人消費に対して強気の言葉を聞けるようになって来た。一例ではあるが、近所の自動車部品会社の駐車場で、最悪期1日に数台であったものが7～8割の駐車に回復している。しかし、満車や6時を過ぎて駐車していた昨年夏の状況までには、至っていない。
		広告代理店（経営者）	・ショッピングセンターの周年祭や、週末高速道路ETC利用による近隣県からの集客テレビCM企画等により一部の得意先の広告費増加は見込めるが、多くの得意先は広告費削減を行うため厳しい状況が続く。
やや悪くなる		繊維工業（経営者）	・現状ではよくなる見通しが見つかからない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・5月に入り、建設用クレーンの稼働状況は極端に悪くなっている。昨年度末から新規工事の発注がなく、このような状況は初めての経験だと口にするユーザーが各地で見受けられ、先行きに対する不透明感が高まっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・景況は悪くなっている。従来の商品でなく、新商品については客からの手応えがある。
		輸送業（経営者）	・旅行業、貸切バスの業務を行っているが、このたびの新型インフルエンザの影響で、方面によっては旅行がキャンセルになったり、京阪神への修学旅行が延期になった。状況次第では景気悪化も否めない。
		輸送業（支店長）	・低迷しているなかで、燃料価格がじわじわと上がり始め、一方では顧客から運賃の見直し要請があり受けざるを得ない状況となっている。明るい材料は全くなく経営環境は悪化していく。
		広告代理店（経営者）	・新型インフルエンザの影響による受注減は少なかったものの、今後強毒性のものが流行しないとは言えず、不安要素が増えた形となった。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・受注が細っており、このままだと今後、資金繰りに影響が出てくる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・自動車関連下請け業者で雇用調整が終了した。また、家電下請でも解雇予定者の解雇撤回が行われた。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・今後も悪いまま推移しそうな状況である。県内のメーカーが円高や材料費の高止まりなどで厳しいままなので、雇用も慎重な状況が継続しそうな様子である。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・現在、求人を考えている企業よりも人員を削減しようとしている企業が多い。

	職業安定所（職員）	・公共工事の前倒し発注や、緊急雇用創出事業が行われているが、根本的な景気回復起爆剤が今のところ見当たらない。事業主にアンケートを実施したが、就職面接会に関心を示したのは2割弱という状況であった。
	職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率が0.49倍に低下している。
	民間職業紹介機関（所長）	・賞与月が近づいているが、今年度1年間の賞与支給は無し、あるいは大幅減額という企業が多い。また、業種を問わず閉塞感があり、今年度に設備投資額を増やそうという企業も少ない。
悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ハローワークがバーゲンセールのように込み合っている。また大手製造業の少ない本県でも撤退企業が出てきたので、雇用不安が深刻になってきている。消費が上向き期待が持てない現状では、強気の広告出稿は望めない。